

ごみ処理方式選定にかかる評価項目(案)

1 処理方式の評価

評価項目について

前回会議でお示したプラントメーカーへの照会項目(22項目)と組合が調査を実施する項目(5項目)を、以下に示す20項目に再整理し、評価項目にしたいと考えております。内訳は、「安定性・安全性」と「経済性」が7項目、「環境性」が6項目です。

2 評価項目

大項目	中項目	小項目	内 容
安定性・安全性 7項目	安定稼動	ごみ質・量の変動と処理不適物	ごみ質やごみ量の変動に対応(処理)が可能か。また、処理不適物の内容はどうか。
		運転管理の難度	難度の高い専門技術が必要か。
		システムの簡略化	機器の種類(点数)はどの程度か。
		補修の頻度	主要機器を補修する頻度はどの程度か
		連続稼動実績	連続して稼動した実績(日数)はどうか。
	安全性	非常時及び防災面への対応	ガス漏れ、爆発など火災対策がとられているか。また、地震、風水害による停止時の対策はとられているか。
		事故・トラブル事例及び労働安全衛生	過去に人災事故・処理が停止した事例があるか。また、稼動後において作業環境悪化事例があるか。
経済性 7項目	建設	建設費及び建物の大きさ	プラント・土木建築工事費、諸経費等はどの程度か。また、建物の大きさから、どの程度の敷地面積が必要か。
	運転管理	運転・維持管理費及び資源・エネルギー消費量	運転管理費(人件費、用役費)、維持管理費(点検費、補修費)はどの程度か。また、助燃剤・電力・用水・薬剤使用量等はどの程度か。
		残渣(資源化)に要する費用	焼却残渣の資源化に係る費用はどの程度か。
		最終処分に要する費用	最終処分場に埋立てする残渣物の処理費用はどの程度か。
	資源化	売電収入	発電量のうちどの程度売電可能か、売電収入はどうか。
		物質回収量及び売却収入	金属、スラグ等の回収量はどの程度か。また、その売却収入はあるか。
	コスト変動	コスト変動対応	用役費から処理経費はどの程度あるか。
環境性 6項目	再資源化	処理残渣の資源化	処理残渣の資源化に係る実現可能性はどうか。
		エネルギー回収量	発電量、熱回収量はどの程度か。
	最終処分負荷	最終処分量	最終処分量はどの程度か。
	公害防止性能	公害防止基準	公害防止基準値を上回る設定が可能であるか。
		排ガス量	排ガス量はどの程度か。
	温暖化負荷	温室効果ガス発生量	二酸化炭素排出量はどの程度か。